

## 要配慮者を示した防災避難支援マップを作成…長土堀

### 1000年に1度の豪雨災害を想定した 水害ハザードマップを用いた災害図上訓練

**訓練年月** 令和2年1月

**実施主体** 長土堀自主防災会

**対象範囲** 交信会（長土堀1丁目、長町3丁目の各一部を区域とする町会）

**参加者** 地区の町会長、民生委員、防災士

**訓練内容** マップに①②③を着色、シールで表示

#### ① 地域の地形的な特徴

- 浸水区域
- 危険箇所、河川、ため池、駐車場など
- 避難所、避難場所、3階建て以上のビル

#### ② 地域の支援者

- 地域支援者となり得る住民や学生宅など

#### ③ 要配慮者の住まい

- 要配慮者利用施設（高齢者施設、保育所、病院など）
- 高齢者、障害のある方、小さい子どもがいる世帯など

#### わかったこと

- 近隣世帯の家族構成の把握が必要
- いざという時の支援者が少ない



平成24年から要配慮者を対象とした訓練を開始し、参加率は徐々に高まっており、令和元年には71%の世帯について参加の確認ができています。

**訓練の案内** 名簿登載者のうち、町会加入者は町会関係者から案内  
町会未加入者は民生委員等が自宅まで持参

**訓練当日** ① 訓練参加者は避難済の用紙（下記参照）を自宅前に掲示  
② 民生委員やまちぐるみ福祉活動推進員が各家庭を回り、  
掲示の有無を確認

※参考 安否確認板のデザイン=自宅前に掲示することで安否確認が効率的に行える



## 他都市の事例1…岡崎市

### 訓練の前に、地域支援者向け実技講習会を開催

町内会で「地域支援者講習会」を実施し、市の保健師を講師に迎え、車いすの使い方や担架の作り方、移動時の注意点、声かけの方法などについて理解を深めた。

事前の心構えができ、訓練に向けて機運が高まった。

### アイマスクを使った避難誘導訓練

町内会で視覚障害者役の高齢者にアイマスクを付けてもらい、支援者が避難誘導を行った。参加者からは視覚障害者の不安や大変さが初めてわかったとの感想があり、理解が深まった。

## 他都市の事例2…高槻市

### 名簿登載者との懇談会（おしゃべり会）を開催

地区福祉委員会から「避難行動要支援者名簿」に登載されている障害のある方とその家族を対象に、懇談会の案内を郵送し、日常生活や困りごと、災害の備えなどについて話し合った。

平成30年度末までに4回開催しており、普段から声をかけ合ったりできる関係づくりにつながっている。

## 他都市の事例3…久留米市

### 避難行動要支援者名簿を活用した図上訓練を開催

平成24年度からモデルの小学区で実施し、全校区に取組を広げている。

訓練には自主防災組織、自治会長、民生委員、消防団等が参加する。

各自治会単位の白地図にフィルムをかけたものを用い、書き込みを行う。

①避難行動要支援者や地域支援者宅へシール貼り、②危険箇所印を付ける、③避難先に丸印を記入、④避難ルートの記入をそれぞれ行った後、災害時の支援の優先度を自治会単位で話し合った。

地域の情報の「見える化」によって、避難行動要支援者の住まい付近が冠水してしまうことがわかるなど、情報共有が進んでいる。

## 他都市の事例4…東京都品川区

### 高層マンションにおける防災研修会を開催

マンションの管理組合、自治会が中心となり、「大震災に対する基本方針」を作成し、全戸配布した。

また、防災研修会を開催し、在宅避難上の課題として、①発災時の物資運搬、②負傷者への対応について協議した。

大震災発生時も在宅避難を継続できるよう、意識を共有するとともに、防災マニュアルの更新を進めている。